

L'amour l'après-midi 昼下りの少女たち

Photography: Jean-François Jonvelle



正午をすぎる頃から、
たそがれまでの数時間、
ときはゆったりと流れる。

少女たちは、
その流れに身をまかせ、
もの想いに沈んだり、
まどろんだり。

フランスで
人気ナンバーワンの異才、

ジャン=フランソワ・
ジョンヴェルのレンズが、
そんな昼下りの少女たちの
時間をぎり取る。

恋するもののまなざしにも似て。

写真: ジャン=フランソワ・ジョンヴェル







Jean-François Jonvelle

彼女と写真家と私生活

文: 高橋周平
Text: Shuhei Takahashi



ジョンヴェルの「喜び(ジョフ)」の「J」——ジョンヴェル自身によるポートレート

ここにいる少女たちは、なぜこれほどまでに美しいのだろう。髪をかきあげたり、頬づえをついたり、くすりと笑う彼女たちの仕草。彼女たちは、ゆったりと流れる時間に包まれている。彼女たちはいかにもリラックスしていて、自然にふるまっている。常識的なレベルでとらえるなら、彼女たちは、完璧な美しさをたたえている。

だが、彼女たちに無条件に向けてしまうこの気持ちは、美という威厳に満ち、しかも客観的な概念から湧き出るものとは、少し異なるかもしれない。もっと私生活寄りの、しかもディテールの部分、ほんの瞬間に現われては消えるようなところにこそ宿る、はかない感情なのだ。彼女たちの背中の緩やかなラインのんびりとした夏の午後を思わせたり、膝小僧の裏側の小さな窪みが、恋の始まりの頃の緊張感を思い起こさせてくれるという具合に、私生活のなかでしか結び合わないような様々な要素が、これらの写真には息づいているように思えてならない。そう、それは恋人を愛しく思う気持ちにきわめて近い。もし彼女たちに恋人がいたなら、彼はきっとこの写真を生み出した写真家に激しく嫉妬したことだろう。そして、彼女たちがこの写真家に、私生活のすみずみまで見せてしまったことに、もっと大きないらだちを覚えたであろうことは、容易に想像できる。

写真家の名前は、ジャン・フランソワ・ジョンヴェル。1943年、南フランスのカヴァイオンという町に生まれ、わずか6週間ながら巨匠リチャード・アヴェドンを師に持ち、70年代以降、パリの

ファッション写真界をリードする存在であり続けている。

私生活に侵入する視線

ここ数年、彼の作風は、ますますプライベートな雰囲気をはじめさせるようになってきた。仕事としては、ファッションと広告を手がけ、その一部は「ジャルダン・デ・モード」などで目にできるが、仕事の目的がどうあれ、基本的に彼のこうしたプライベートな作風は変わることはない。

彼には、「ミストレス」「ピス」という2冊の作品集がある。こちらの方は、もっともっとプライベートにまとめられたジョンヴェルの世界が広がっている。とりわけ、「ミストレス」の方は、ジョンヴェルの性生活的告白記といってもいいほどの刺激的な内容になっている。彼はこの写真集のなかで、プライベートを完全に写しだすために、「盗み撮り」という手法をこつこつ用いる。場所はおそらく南フランスのリゾート地。その一角を占めるシンプルなお茶屋が舞台である。ジョンヴェルは、恋人と連れだってこのコテージにやってくる。

シャッターチャンスは、生活を始めて、ほどなくしてやってくる。ジョンヴェルと恋人は毎晩いっしょに眠る。ある早朝、恋人がベッドをそっと抜け出してキッチンに立ち、裸のまま冷蔵庫を物色する。またある昼下りに、恋人は滑稽なほどナルシステックな表情で、鏡に向かって下着を付けていたりする。ジョンヴェルは、こうした恋人たちの行為を、そっと、ドアの隙間からレンズを突き出して見入

る。ときには盗み撮りを見破って、きわどく彼を挑発するような女性の姿もある。しかも不思議なことに、恋人として登場するのはトップモデルばかり、10名以上にのぼる。

これらの写真は、のぞき、のぞかれるという関係の上で、きわどく描かれているわけだが、この盗み撮りの方法で得られる視線は、そのきわどさゆえに、きわめて日常の視線のあり方に近い。恋人たちの信頼関係の、その強い絆があって初めて成立する情景なのだ。

写真という複雑な愛情

ここに並ぶ少女たちとジョンヴェルの間にも、疑似的とはいえないが、現実に近い恋人関係という絆が見え隠れする。ジョンヴェルは彼女たちに恋をし、この世の中に自分以外の男がいることを嘆き、彼女たちに私生活をさらけ出させ、そこに踏み込み、そして、彼女たち自身も経験したことのないような、写真という複雑な愛情で彼女たちを包み込むのだ。エレガントに、そしてスリリングに。

パリの街を歩いていると、ジョンヴェルの写真にしばしば出会う。彼の写真は、雑誌の発売日には、メトロの壁に巨大なポスターとなって貼りだされ、そして、街角に驚くほどたくさんあるポストカードショップでは、常に一番いい場所に彼のカードが置かれている。

彼の写真は、一見、男性に向けたもののように見える。だが、彼のこの微妙な作風を本当に理解できるのは、モデルと同じ気持ちになれる女性たちなのではないだろうか。●



L'amour l'après-midi



